

アペソ（囲炉裏）

アイヌの伝統的なチセ（住居）は囲炉裏（アイヌ語で火を表すアペに由来するアペソ）を中心に建築されています。また、火の上の垂木から吊り下げられた調理用の鍋は、オハウ（伝統的な煮込み汁）やシト（団子）を作るのに使われていました。さらに垂木に魚を吊り下げ、火の煙で燻製を作ります。この囲炉裏は暖をとる主な場所であり、社会交流の中心的な場でもありました。アペソは住居の中心にあるわけではなく、玄関の少し近くに位置しています。これにより、玄関の反対側にある神窓に、何にもない大きなスペースを確保することを可能にしています。家の宝物は神窓の横に飾られ、大切なお客さんが来た際は、囲炉裏の神窓側に座ってもらいます。